

■趣 旨

2018 年の「東京ミッドタウン日比谷」のオープンによって日比谷の街は大きく変貌し、豊かな歩行者空間が生み出されましたが、それ以前から有楽町～日比谷エリアでは、「日比谷シティ」や「有楽町イトシア」など都市再生によって優れた広場空間が創出されています。今回は、東京ミッドタウン日比谷を中心に、有楽町・日比谷エリアの歩行者空間を巡るとともに、これから街がどう変貌し、街の魅力はどうかについて考えてみたいと思います。

■日 程

◎企画説明 2023 年 2 月 26 日(日) 20:00～ 【オンラインZOOM会議】

◎まち歩き 2023 年 3 月 19 日(日) 13:30～17:00（分散型での参加は各自でまち歩き）

■まち歩きルート

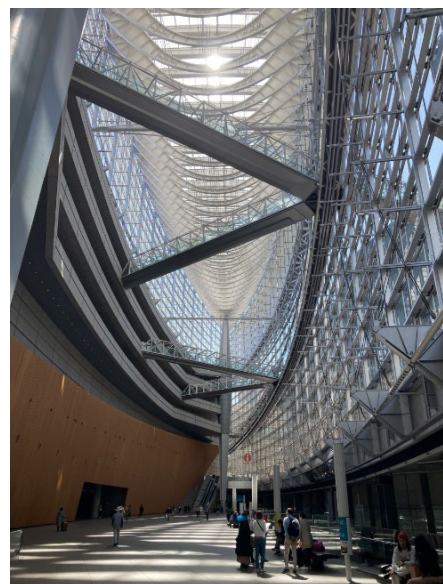
◎東京国際フォーラム ⇒ 有楽イトシア ⇒ 東京ミッドタウン日比谷 ⇒ 帝国ホテル(ライト館展示)
⇒ 日比谷公園 ⇒ 日比谷シティ ⇒ 日比谷 OKUROJI

■参加者

安藤 文*、井手幸人、伊藤圭子、上野朋子、大竹 亮、加藤仁美、高橋 謙、原 久子*、藤井正男*、藤井幹也*、
古里 実、松野栄明、村田英樹、村松紀明、山下浩一、横田宜明*、吉川盛一、◎栗原 徹 合計 18 名

◎＝コーディネーター *＝分散型での参加

■まち歩きルート

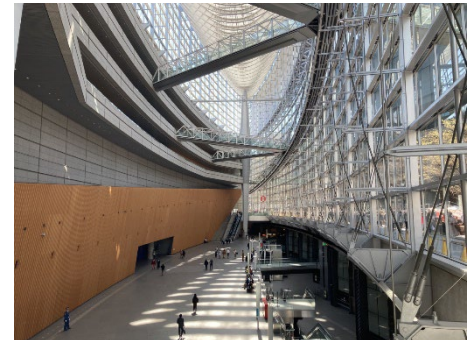
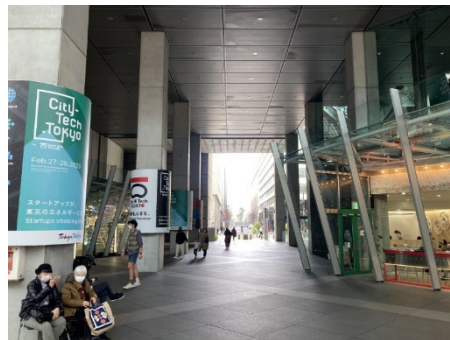


- A：東京ミッドタウン日比谷など大規模複合施設から有楽町のガード下まで、様々な街の表情があり、東京国際フォーラムや劇場、映画館も揃っていて、非常に多様な魅力がある。
- A：人がたくさん街に出ていて、とても賑わっていたことが印象的だった。コロナ禍が一段落し、暖かくなってきた日曜日ということで、開放感にあふれて、皆楽しげであった。歩行者空間の評価では、現に歩行者に選ばれていることがキーであろうと思う。一方、内幸町はオフィス街なので休日の人通りは少なかった。もっとも人が多い理由は、東京圏の人口の多さやアクセスの良さに負うところが多いだろう。このエリアは国内で比較・評価されるだけでなく、グローバルな競争でも勝つ必要がある。だから、皇居や政治・行政の中心であることをもっと活用すべきだと考えた。
- A：有楽町から日比谷にかけてのエリアは、大まかには JR の線路を境界にして西側のオフィス街と東側の繁華街とに分かれており（一部西側にも繁華街が食い込んでいますが）、その対照性が印象的です。東側の繁華街は敷地が細分化されて細街路も多いので、歩行者にとっては比較的歩きやすい空間になっていますが、西側のオフィス街は大街区のため、道路は車優先で賑わいになりにくい空間になっていたように思います。いくつかの建物の中には、アーケード街もありましたが、敷地内で閉じられた空間になっていました。それをまちにつなげる歩きやすい賑わいの空間とするために、東京国際フォーラムでは街区内にパッサージュを設け、ミッドタウン日比谷では、道路を広場に付け替えて歩きやすい公共空間を生み出し、地下の日比谷アーケードも地下鉄とつなげてネットワーク化したということかと思います。今後こうした歩きやすく賑わいのある歩行者空間のネットワークを広げていく取組が進んでいくことを期待します。
- A：建物や線路等の構築物の地上・地下間の空間と周辺道路の境界領域を操作しながら、実現した歩行者空間は、広いエリアで回遊性をもたらし、大変魅力を感じた。所有権や維持管理体制はどのようになっているか、興味を抱いた。超高層建築も、皇居や日比谷公園との関係か、圧迫感を感じさせず、全体でバランスのとれた街並みとなっていた。
- A：皇居、日比谷公園から、オフィス、映画・演劇、飲み屋街まで重層的で幅広い地区。上品な趣もあり、東京の顔といつて良いと思います。
- A：東京市区改正から現在にいたる歴史がたどれ、新たに整備された歩行者に視点を置いた空間や建築も質が高い。
- A：大手町、丸の内、日本橋の再開発ビルに目を奪われてきたが、連続する日比谷が変貌していることを初めて知りました。たいへんよい企画でした。
- A：人が集まる場所だからなのか、それなりになっている気がします。
- A：さすが東京ど真ん中。充実してます。
- B：有楽町・日比谷の街は、オフィス街であるとともに、銀座への入口で映画館や劇場も多く、またお濠や日比谷公園の水と緑など、都心にあって魅力的な界隈である。近年の再開発によって、歩行者空間ネットワークが着実に拡充されてきて、より快適に歩き回れる環境となっている。一方で、ガード下や裏路地の怪しくも庶民的なスペースがなくなりつつあるのは寂しいところ。
- B：前回歩いた大丸と違い、ビジネス一辺倒ではない町並みが雑っぽくて面白い。ホテルあり、映画館あり、劇場ありと。鉄道高架下の煉瓦アーチはぜひ残って欲しいが。
- B：1つ1つの開発や建築のレベルは高いし、環境資源としての日比谷公園や内堀があるにも関わらず、全体としての一体感や連続性が欠けてしまっているのが残念なところ。
- B：日常の生活が横浜市内と神奈川県域で完結し、以前の仕事で川崎市から建設省に通っただけの私としては、日頃は東京都心部に縁がなく、驚きの連続であった。全体に共通して言えることは、歩行者の視点・感覚から街を見直そうとしている動きが感じられることで、好ましいと思う。ただ、全体に過度に「高容積率な」建築物が多くみられ、圧迫感があり、この点でやや減点とした。全国各地でタワーマンションのみが頼みの「再開発」が雑草のように増殖するなかで、やはり高層・高密度な再開発はオフィス・商業+αの床で構成されるべきだ、という、「あるべき姿」を示していると言える。
- B：皇居、日比谷公園といった大オープンスペースが近くにあり、再開発で歩きやすいまちに変貌している。現在進められている、内幸町の再開発後どうなるか楽しみです。
- B：歩きやすく楽しい空間がたくさん準備されている街になっていると感じました。
- B：日比谷が活性化されたと思う。個々のビルだけではなく、今後の街としてのつながりに多いに期待。

2 歩行者空間を主体にその周辺施設なども含めて

(1) 東京国際フォーラム

評価 4.38 (AAAAAAAAAAABBBB)



特A：極めて素晴らしい空間である。2棟に囲まれた歩行者広場は、ホール入口と通り抜け通路、イベント広場を兼ねており、カフェ等も面してとても居心地がいい。ガラス棟の内部空間はダイナミックだし、有楽町線と京葉線に接続する地下通路も便利で楽しい。周囲のビル街と調和した西側ファサードや、突き当たる道路を受ける正面エントランスも、すぐれて都市的なデザインだ。内部も大中小ホールの組み合わせと立体的な動線、そして内部外部相互の視線の交錯が、非常に魅力的な空間体験をもたらしている。

A：施設全体を閉じた空間とせず、広場空間や建物内部を意図的に通り抜け空間としたことで、この施設自体が街の一部となっている。非常によく考えられた素晴らしい建築だと思う。

A：通路兼広場、建物内部の透明感により広場とつながりがありとても良い。櫛の新緑が心地よく、積極的に利用されている良い空間でした。

A：都市的な広場を内包する複合建築のお手本のような作品。線路側のアールの効いたガラスホール棟と広場を挟むマッシブなホール劇場棟との対比空間のデザインがうまい。

A：鉄道とホールの間に緩衝空間としてのアトリウムを設け、ダイナミックな空間を構成している。このアトリウムは最初は無駄に思えたが、ホール入口を演出するとともに、都心にはない隙間を作ろうとした感性に驚かされる。維持費は高そうだが。

A：(広大なガラス面のメンテナンスは大変だろうと想像するが) 当日行われていた「蚤の市」ふうのマーケットとその集客力には感心した。外国人客の多さも街の評価を考えさせる要素である。天気がよかったためもあるだろうが、広場として理想的に活用されていると感じた。

A：ガラスはもちろん、大きな円柱が印象的。築後20年以上も経っているのに全く古びた感じがしないのは素晴らしいと思います。

A：平日午後の訪問でしたが通り抜け広場は多くの人が憩い大変有効に活用されている様子。キッチンカーも多数出ていてビジネスマンや一般の訪問客が一息つくスペースとして定着しているのが良く判った。

A：既存の街路をうまく建物に中に取り込んだすばらしい施設。

A：ガラス棟と4つのホールからなるコンベンションセンターで、都心にありながらオープンな空間を持っている。私は2005年から始まったクラシック音楽祭ラ・フォル・ジュルネの会場として親しみがある。4つのホールと地下ホール、広場を活用し、コロナ渦で2021年22年は開催されなかったが、年々規模が拡大し周辺の丸ビルやKITTE、東京駅丸の内地下等会場が広がり、町全体が音楽会場となる文化性の高いイベントである。2年ぶりに開催される今年が楽しみである。

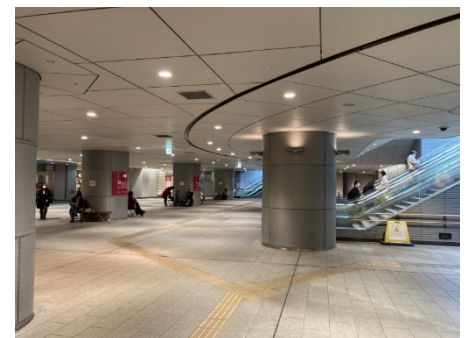
A：施設等よくできていると思いました。

B：街区の外側は堅い石貼りのファサードで閉じて、街区内に店舗や露店によるにぎわいのパッセージ空間を創造した先駆的な例として評価できると思います。ただし、建物内部はモノトーンで色彩がなく、イベントが開催されるフォーラムという割には薄暗い雰囲気になっているのが残念です。ガラス棟の吹き抜けは圧巻で、内装に木材も使用されて明るい空間になっていますが、あまり賑わいが感じられません。動線の問題かもしれませんが、ガラス棟がホール棟と地下でしか繋がっていないため、ガラス棟がフォーラムの入り口と認識されにくいのではないかと思います。全体的には、バブル期の名残の建築という印象で、著作権の問題もあると思いますが、カラフルなサインなどで動線をわかりやすくするなど、リニューアルした方がいいと思います。

- B：大空間の中で、広場の賑やかさが魅力的であった。他のスペースは、利用されていない時間は空間が大きいだけに、ガラス棟で広場や空との一体性はあるものの、閑散とした印象がぬぐえなかった。また、デザインの配慮なのか、トイレが細い通路奥の小さなスペースで少々不便を感じた。
- B：コンペのパスが雑誌に載っていて、仕事場に貼っていました。ホント広場が憩いの場になって良かったとおもいます。ただしホールは、何度か行きましたが、見やすいとか音がいいとかはあまり関係ないようで残念です。駅が近いからイベントにはとてもいいです。
- B：上質の空間であるが、一等地の都庁跡地ということでたいへんお金がかかっており、手放してほめることは難しい。今回の評価対象ではないが、JR東京駅との接続通路などはやたら壮麗で違和感を覚える。
- C：イベント時の広場の賑わいがガラス棟の内部に上手くつながらないのが残念でした。

(2) 有楽町イトシア（駅前広場など）

評価 4.00 (AAAAAAAAABBBBBBC)



- A：再開発に合わせて駅前広場を整備するとともに、周辺道路やガード下も歩行者専用化することで、非常にユニークな歩行者空間が創出されている。
- A：再開発に併せて道路を再編し、JR 有楽町駅と直結した広場空間を整備した計画は秀逸。店舗も個性的な店舗が多く、有楽町らしい高級感と個性が共存している。
- A：従来のクルマ空間・車道を可能な限り削り取り、駅前広場とそれにつながる空間を歩行者・来街者に開放している。ここまで手を加えると、既存の「東京交通会館」のイメージも変わってくるのが面白い。ただ、主役であるはずの「イトシア」の建物の中身の印象がやや薄かったような気がする。
- A：車道を歩行者広場に変えた再開発事業の工夫はとても良い。防災上の課題はあるが残ってしまった街区との対比も面白い。
- A：再開発に合わせて駅前広場とガード下から車道を無くして、自由に行き来できる広い歩行者空間を設けたことは素晴らしい。マリオン自由通路方面への動線も、より快適になった。地下の広場はがらんとしいつも寂しい感じがして、もう少し工夫がほしい。
- A：駅前の車道を廃止してとても歩きやすい空間になっていると思います。駅前広場のウォークアブル化のはしりでしょうか。地下の連絡通路もいいのですが、モノトーンな公共通路のように感じられて残念です。日比谷アーケードのように温かみのある空間になるといいのですが。
- A：有楽町駅前広場を中心に連続した歩行者空間が形成され、有楽町イトシア、有楽町マリオン、銀座へと歩くのが楽しい。広場に記念碑的に残された南町奉行所跡の石垣がアクセントになっている。かつては聳えていた東京交通会館が小さく見えた。
- A：駅前広場として歩行者空間が確保されたことはよいが、そこから派生する路地への誘導デザインが弱い、駅前広場にとどまらず、その点考慮されるとより楽しい空間になる。
- A：（駅前広場の評価）よく道を広場にすると当時は本当に感動しました。この英断とまとめた方達を尊敬します。（イトシアはB）
- B：鉄道のガード下や交通会館などの古いものとの関係性を保ちつつ、地上・地下とも歩行者にとって安全で移動しやすい空間をつくらうとしている姿勢を高く評価する。基本は移動空間なので落ち着かない。イトシアそのものはチープな印象。不法占拠に端を発する雑然とした路地が残っていて嬉しい。
- B：歩行者広場は良い空間だが、地下の広場が各ビルの地下街から隔絶しており、ちょっと寂しく、かつわかりにくい。

- B：イトシアのガラス貼のビル、駅前の広場と路地の店舗群、鉄道高架下の猥雑な雰囲気とのバランスが、有楽町の昔を彷彿させて、ほっとする空間になっている。イトシアと高架下の間の三角の街区も、いずれは再開発の波にのるのであろうが。
- B：歩行者空間が多層になっていること、様々な歩行者空間があることは発見でした。
- B：広場素敵ですね。また、昔の有楽町を感じさせる施設が残せるといいですね。
- B：よくできていると思いました。
- C：車を止めて広場を作ったが使える広場になっていない。少し広めの歩道と言う感覚で人々は通り抜けるが滞留しない。

(3) 東京ミッドタウン日比谷（屋外空間及び商業施設など）

評価 3.88 (AAAAAAAAABBBBCC)



- A：大規模な複合開発によって、地下の日比谷アーケードやデッキレベルのステップ広場など重層的な歩行者空間が生み出され、アトリウムのある商業施設やシネコンの魅力も相まって、非常に多くの人で賑わっている。6階のスカイビューガーデンからの眺めは素晴らしい。
- A：道路用地を広場に付け替えて、シャンテとの間の道路も含めて豊かな歩行空間になったと思います。地下の日比谷アーケードも、地下でありながら天井が高く開放的で温かみがあるいい空間で、すばらしいと思います。建物の店舗はちょっと詰め込んだ感がありますが、レトロなエレベーターのデザインや3.1mに合わせた外壁のデザインは評価できます。6階や9階の屋上ガーデンは緑できれいにデザインされ、お堀や日比谷公園の眺めもすばらしく、気持ちのいい空間でした。一方、JR線路沿いには飲み屋街が残っており、ハイソな空間と雑然とした空間が隣接しているのが印象的でした。
- A：周辺環境とつながるステップ広場、6階のパークビューガーデンは秀逸。二つのビル建替えによる街区再編と新たに創出された歩行者空間が、生きている。以前訪れた時は、パークガーデンも地下の日比谷アーケードも知らず・・・立体的な回遊マップなどがあるといいかと思った。（もうあるのかもしれないが）
- A：入っていきなりの吹抜け空間とそれを囲む店舗構成、さすが三井不動産と思われる個性派のテナントリーシングが素晴らしい。飲食店も、大通りから路地に入ったような空間構成で、新しさを感じた。また日比谷アーケードも不思議な場所にあるが、それがまた面白い。
- A：日比谷シャンテと連携して広場を作った。かつては映画館のビルだけが並ぶ殺風景な街区が美しく蘇った。地下の日比谷アーケードも天井が高く幅も広いのでゆったりしている。
- A：低層階の商業空間デザインは多少うるさくてあまり評価できない。また花壇の中のオブジェも残念な印象で、総体として短期的なデザインに重きを置いていないと思われた。建築物については、隣接する日生劇場との連続性の確保、地下空間における記憶へのリスペクト、皇居や日比谷公園に近接することの自覚、などが高く評価できる。空中庭園の居心地の良さと日比谷公園方面から見た景観は良い。現在の階段を含む街路は中途半端であるが、日比谷公園まで延伸されるということなので期待。
- A：数式に乗らないような形のアーチが続く地下アーケードが面白い。6階のテラスガーデンの景色も素晴らしく、魅力的な店も多い。歩行者空間と日比谷公園と直結に期待。
- A：6Fのデッキ（この公開空間は素晴らしい）から望める日比谷公園・皇居周辺の景観は感動もの。
- A：凄い施設ですね。
- B：6階のパークビューガーデンは、日比谷公園や江戸城内堀も一望できとても気持ちのいい空間になっている。日生劇場と町並みを揃えた低層部のデザインも良い。地下の日比谷アーケードは歴史を引き継ごうとしたデザインをもう少し徹底して欲しかった。また、街区の統合による歩行者空間が拡充されたが、ステップ広場はあまり使われておらずもう一工夫欲しい。

- B：「イトシア」と共通する着眼点で、歩行者・来街者に敷地を開放している。さらに、上層階の展望デッキにより、(少々強引に)建物内に来街者を引き込むことに成功している。この「ミッドタウン」を日比谷公園内から眺めたとき、その巨大すぎるボリュームにいささか拒否反応を感じてしまった。大きすぎる。全体として自己主張の強すぎる建物、という印象である。既存の日生劇場などとの調和は評価できる。
- B：隣接の日比谷シャンテとの連続性を意識した歩行者空間や、日比谷公園を望む屋上テラスなどなかなかいいが、内部の商業施設や2階デッキは今一つ魅力に乏しい。地下のコリドーは賑わいが感じられ、地下鉄連絡通路の新しいスタイルか。
- B：日比谷公園、皇居側(地域資産)を意識した6階テラスはよい、地下アーケードやエレベーターホールはかつての三信ビルの歴史を感じられ良いと思う。
- B：駅からは少し遠いがなかなかの集客。どの階も多くの人が行き来して賑やかだった。B1Fのアーケードもそれなりの雰囲気があり良い感じ。
- C：帝国ホテル側から来ると視界が抜けて広場なのはいいのですが、日比谷側がバックのようになってしまったのだなと少し残念に思いました。広場のあるシャンテとの通りは、公演が終わると宝塚のファンがズラッと並び、お見送りする所でした。かつての三信ビルのあった喫茶店は時々行きましたが、主に宝塚の観劇帰りの人が、よくお茶をしていたのを覚えています。居心地の良い店で良かったです。今は昔ですね。
- C：中層階の屋外空間は魅力的ですが、気持ちの良い椅子は飲食をする人のみの利用を想定して設置しているように後から思いました。

(4) 日比谷公園

評価 4.13 (AAAAAAAAABBBBBB)



- A：東京都心のまとまった広さの都市公園として貴重な空間であり、様々な緑空間を有するとともに、レストランや音楽堂、図書館など、文化の発信拠点としても重要な役割を果たしている。
- A：「ミッドタウン」を抜け出して、日比谷公園に入ったときに、ふと安堵感を感じた。人ごみを抜け出した、という気持ちである。公園の周囲がより高層・高密度化されればされるほど、公園の解放感と豊かな緑は価値を増している。いまや皇居・新宿御苑などとともに、東京都心部の貴重な「息抜き」空間となり、その存在はさらに貴重となっている。「ミッドタウン」の展望デッキも、この公園の存在があっちはじめて成り立つアイデアであろう。
- A：旧御成門前桜川にかかっていた石橋の移築など、日比谷公園の知らなかつた場所、施設がまだまだあります。時空を超えたワンダーランドです。
- A：近代的洋風公園の先駆けとして歴史のある公園である。江戸城の遺構を残し、皇居前広場、日比谷堀と連続している。周囲を広域幹線道路で囲まれているので、日比谷側からのペDESTリアンデッキによる一体化は良いと思う。
- A：先人が頑張って作ったいい公園だと思います。それを大事にしたいと思う人がいての、今ですね。チューリップも咲きそろい、それぞれの人がそれぞれに楽しんでました。何度も来ているのに、馬の水飲みというのを見つけ、今更ながら発見がありました。芝刈りをルンバの様なものがやっていて、新旧あって面白い。いいなと思う感性が繋がっていく事を期待します。
- A：かつての都市計画の理想を感じられる都会のオアシス公園。
- A：行きなれた公園でしたが、改めて歴史的な見所が多いことを再確認しました。エリア毎の対比も面白く、偉大な先輩に敬意を表したいです。
- A：都心の貴重な歴史的空間遺産。40年前には毎日のように横切っていた空間。なつかしさが勝って客観的に評価できない。これからも大切に残していきましょう。

- A：仕事でたまに行っていたのですが、じっくり見るとさすが日本最古の都市公園ですね。
- B：江戸時代から明治の市区改正にかけての歴史を感じさせる遺構が沢山あることを再認識した。もう少し緑が深いゾーンもあって良いのでは。
- B：以前から時々利用していたが、今回改めて一周してその歴史資源も含めた豊かな全貌がわかった。結婚式場に利用されていた木造洋館の明るい賑わいと、長期閉鎖された日比谷公会堂の寂しさが対照的。周囲で開発が進んでいるので、まだまだ有効利用できる要素があると思う。
- B：都心に近い歴史のある大規模公園。日比谷公会堂、日比谷図書館、松本楼、旧公園事務所などの歴史的な建造物が落ち着いたを与えていると思います。日比谷パレスやパークセンターなど建物には少しずつ新しい店舗を入れて、リノベーションが進んでいますが、全体的に施設が老朽化している感じが否めないのが、新たな発想でのリニューアルを期待します。
- B：東京の中心地にこれだけの公園が存在することが価値。中に入ると外に建つビル群を忘れてしまう。皇居と隣接しており緑が繋がっている事も良い。(今回は立ち寄りませんでした)
- B：周囲の街区群と連続性のある公園空間となることを期待したい。周辺ビル群の立面案内図などある(あったかも?)と、日比谷公園からの景観も確認できるのでは。
- B：都市の貴重な緑地だと思います。
- B：日比谷野音の建替えに併せて、もう少し開放的な公園としてはどうか。

(5) 日比谷シティ (広場)

評価 1.87 (BBBBBBBCCCCCD)

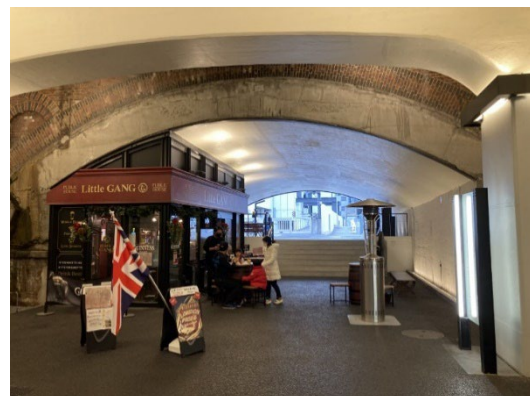


- B：サンクンガーデンと地下の連続した食堂街は味気のないオフィスビルに楽しさを与えていると思います。サンクンガーデンにアイスリンクやフットサル場を設置していたときは賑わっていました。コロナ禍で寂しくなりましたが、復活を期待しています。
- B：外部空間なのに室内のような人工芝の椅子とカーペットに見える床仕上げにしているところが面白い。使われているところを見てみたかった。
- B：重厚感あります。
- B：サンクンガーデンを、オフィス就業者のための“使えるアウトドアオフィス”面白い。
- B：日曜日ということで、公開空地に入れなかったのが残念。公開されているときに、人々がどのようにこのスペースを活用・利用しているのかを見たかった。建設年次が古いこともあり、公開空地のデザインとしては古典的。アウトドアオフィスとしての使われ方も見たい。以前にアイススケート場として使われているのを見た記憶がある。建設省に行った帰り道だったか。
- B：当時はビル間に広場を設置するという画期的なことだったと思うが、リニューアルのデザインコンセプトが練られていない感じが残念。
- B：足元の広場空間は、できたときはニューヨークのロックフェラーセンターを思わせたが、今となっては古さを感じてしまう。
- C：大規模な開発に合わせてサンクンガーデンを整備し、地下の商店街につなげるという発想は当時としては画期的。時代に合わせてアウトドアオフィスにリニューアルしたことは良いと思うが、街の賑わいという面では日曜日に閉まっていたのがとても残念。
- C：コロナ禍の都心部でコ・ワーキングスペースにするという発想はいいが、いかにも暫定利用的で、建物との関係や街への広がりがない。サンクンガーデンを効果的に使うには、魅力的な空間構成や用途導入などの求心力が必要。

- C : かつてはまぶしい憧れの空間だったが、日曜日で人がいなかったのと、周りが高規格で更新されてきたこととで、わびしく感じた。一段下がった広場は周りから隔離されていて、当時は落ち着ける空間だと考えられたのだろうが、今となつては、もっとオープンになって隣接街区との連携確保が必要だと思われる。
- C : 広場は人工的な造りで長く居たいとは思わない。平日の午後であったが人影はまばら。内幸町駅に繋がる通路は昭和の佇まい。
- C : 3つのビルの共用常設アウトドアオフィスの活用状況を見たかった。日常的（休日とは？）に開放されていないのが、残念。
- C : 建物を見て、もはや不動産に建築、都市計画は負けたのだなと思いました。ただ、足下の造園（日比谷パークフロント）は、日比谷公園へのリスペクトがあるのか、植栽の種類や計画、巣箱、鳥の水飲み場、小さいかもしれないけど、心が込もっている事に救われました。飯野ビルの足元の広場も頑張っていた感じはありますが。建築物は、この様な計画に携われるチャンスのある人々には、人ごとなのだなと思いました。自分の故郷が、この様になったらどう思うのかと思うのですが。近場に550円でお弁当を出している店があり、物価上昇に伴い値上げしますとありましたが。こういう店にホッとします。（注：安いとかそういう話ではないです。）このようなビル街にあつて、気持ちで店舗を運営してる所があることについて尊敬する。
- C : 休日のため閑散としていたせいもあると思うが、人工芝のベンチにはちょっと違和感を感じました。
- D : 公開空地で整備されているが、日曜は封鎖されていて利用することができなかった。

(6) 日比谷 OKUROI

評価 4.38 (AAAAAAAAABBC)



- A : JRの鉄道高架下をリニューアルした施設だが、耐震改修も違和感なく処理し、凝ったレンガの積み方を活かしたデザインがなかなか良い。飲食店を中心とした店舗も個性的で、非常に魅力的な空間になっている
- A : 鉄道のレンガアーチ高架橋の高架下空間を魅力的に再生していると思います。当初訪れたときよりアルコールを出すお店が増えたような気がします。和風のカフェでお団子をいただきましたが、窓がないため閉鎖的な感じがするので、高架下はやはり飲み屋街が適しているようです。新橋方面の高架下には、昔の飲み屋街が続いているようですが、衛生環境の向上のためにリニューアルされることを希望します。
- A : 歴史のある鉄道高架煉瓦アーチをリノベーションしてしゃれた飲食店街とした。映画観劇の後の食の楽しみが増え、日比谷の魅力が増した。
- A : レンガアーチの意匠だけではなく、内部のコリドーも歩いていて楽しい。中を店舗に使わずに歩行者空間にしたのは英断だと思います。
- A : 新橋側の銀座裏路地との対比が効果的で、店舗も個性的で楽しい。銀座の裏にもかかわらず、高速道路下で分断された駅間という立地が微妙で、どれだけ人を引き込めるか、あるいは隠れた名所として継続できるか期待したい。
- A : 歴史遺産のガード下をうまく活用していて、おしゃれで雰囲気がある。テナント料は周辺と比べて相対的に安いのだろうか。今は新しいので明るいが、維持管理を怠るとすぐ薄汚くなりそう。また、換気に少し難を感じた。
- A : 歴史を感じる煉瓦造アーチを活かした空間整備が良い。
- A : 鉄道のレンガなど遺構を活かしていて、面白い。新橋から続く昭和なガード下が雰囲気ではなくなっていました。
- A : 今も現役の100年以上経った煉瓦アーチがむき出しで見れるし、魅力的な施設（居酒屋など）が入っている。
- A : こんな施設ができていたとは。びっくりしました。

- B：垢抜けた商業・飲食スペースとしては秀逸だが、どうも以前の「ガード下」から比べると、敷居の高いテナントが多い。客単価も高そうである。安サラリーマンの憩いの場として継続しているのだろうか？スペースとしては主にJR東日本のテリトリーであるが、一部に東海道新幹線の下（JR東海）も含まれていた。東海がどういうコミットをしたのか、興味深い。後日あらためて、ひとりの酔客として訪れてみたい。
- B：高架下の通路がこの様に整備されているのを知らなかったが、とても綺麗に整備されていた。かなりの店舗数があるが、それに見合う人流は無く経営的には厳しそう。有楽町駅と新橋駅のちょうど中間にあり人を誘導するのは難しいか。
- B：地上の雑踏とは異なる空気感でなぜか落ち着く。地上とは異なる空間の活用とそれらにより生まれる日常的な空間デザインに期待したい。
- C：高架下を有効利用するのはいいが、小奇麗な店が並んでいるだけだし、通過動線としても両端が中途半端。また、高架下独特のごちゃごちゃ感やテナントの怪しげな感じもなく、妙にジェントリフィケーションされてしまった。狭い意味での収益ビジネス的な発想にとどまっており、今回の他地区のような公共貢献や魅力づくりにつながっていないのはとても残念。
- D：秋葉原と御徒町間の2K540を見ればどんなものができたかわかるはずなのになぜ同じ様に作るのか 理解できないですが、この感性が自分に合わないだけなら仕方ないと思いました。人はいなかったがそれでいいということかな。治安悪くなりそう。

3. 歩行者空間を魅力的なものにするためには、何が必要だと思いますか？（自由意見）

- ◎駅前や商業ビルの間など、歩行者が多い空間に車の侵入を制限して、安心快適、自由でスムーズに歩き回れる面的広がり形成することは、街の魅力と賑わいづくりにとって非常に重要である。巨大な郊外型SCの内部がシームレスな歩行者専用空間になっていることを考えれば、それは最低条件であるし、さらに市街地であることの独自の魅力を付加する必要がある。すなわち、歩行者空間ができる限り連続すること、そこに面する建物の1階に店舗等が並んでいること、路面舗装等のしつらえが歩きやすくお洒落であること、広場や道幅が広すぎず狭すぎず建物の圧迫感も少なく居心地がいいこと、主要な目的地へ最短距離で到達できること、そして全体として歩行者空間を歩き回ることが楽しい体験をもたらすこと、などである。これを実現するためには、都市デザインに関する高い能力を有する建築家の全体構想力と、関係行政機関や民間事業者間での理念の共有と粘り強い調整努力、その両方が必須であろう。
- ◎人間スケールの居心地の良い空間づくりと、景観への配慮や周辺空間との連続性の確保など大きな視点での計画の、両方が必要だと感じた。また、歴史的建造物や公園のような既存の空間資源を十分活用するとともに、自身の計画も周辺の環境向上に寄与すべきとする態度が求められる。足元を気にする必要のない歩きやすさと、そこそこで座れる配慮。建物と歩行者空間の連続性を保つカフェなどの滲みだし空間の充実。夜の明るさと安全性確保は基本。さらに日比谷シャンテ前のゴジラのような物語性が随所にあると楽しいと思う。
- ◎自動車交通の排除による安全性、屋外空間などの開放性、建物等による適度な囲まれ感、店舗や露店による賑わい、デザイン性のあるストリートファニチャーと適切な管理運営、そしてこれらの歩行者空間のネットワーク化といったところでしょうか。
- ◎機能は前提として、視角＝景観。緑や空、曲線など単調ではない深みや人間味のあるデザイン。ところどころベンチなど留まれるスペース。周辺地域を感じられる広がりや誘導、無目的にこのエリアをウロウロ歩き回りたいと思わせる、わざとらしくない変化や刺激。
- ◎魅力的な歩行者空間として最も重要な要素は、居心地の良さだと思う。居心地が良ければ人が集まり、人が集まることで賑わいが生まれる。そういう意味では、歩行者として通過する機能よりも、その場に溜まる機能を充実させることがポイントになるのではないかな。
- ◎車道空間との分離や共存の工夫は基本だが、沿道や広場に面する建築群のデザインの質が大事だと思う。さらに、屋台やイベントなど祝祭的利用ができることも大切だと思う。
- ◎店舗やビルのデザインばかりでなく、舗装や植栽も含めた道路空間のデザインも重要。また、建物群の町並みとしての統一感も必要だと思う。
- ◎足腰に障害のある私としては、公開空地等に多用される石貼り、レンガ、ブロック、タイル等のでこぼこのある舗装を止めてほしいと思います。普通のアスファルト舗装で十分です。どうしてもアピールしたければカラー舗装で。わずかな段差でも、躓くことがあります。設計者・プランナーには、公開空地の路面はおしゃれでなければならないという誤った先入観があるようです。それと、手摺りの設置の重要性です。わずかな段差でも、歩行弱者はふらつきます。こまめにチェックして、段差を越えるときにつかまれる装置を徹底して行き渡らせてください。

- ◎歩行者空間の魅力は、適切なボリュームの人が行き交うことだと思います。それには、過度にならない楽しさ、高収益ではないが継続的な魅力ある小店舗（マルシェ的な出店？）があると良いと思いました。
- ◎まず、安全（治安的にも）であることが大事かと思いますが。個人的には、賑わいは大切な事だと思っています。賑わいは、人の心が動いて、行きたくなる、食べたくなるという動機につながるとしています。
- ◎通り抜け通路であれば、通り抜けるための何らかの目的が欲しい。抜けたら何かが見えるとか何処かに行けるとか。広場であれば座れる設備や飲食を提供する施設とか。何より寛げる空間が必要。月並みなコメントで申し訳ありません。
- ◎セットバックによる公開空地が必要
有楽町駅から日比谷映画街へ行く街路は多くの人が行き交うが有楽町電気ビルディングの公開空地を使って歩くのに余裕ができています。歩道だけではあふれてしまう。連続して歩きやすい空間となっている。
- ◎幅員の広いグリッド状の道路で区切られると、街区同士の関係性が薄くなってしまいます。グリーンネットワークのような、何かシンボリックにつながマスタープランが必要ではないかと思った。
- ◎今回の視察で、都心部の商業業務空間であるにもかかわらず、境界線を感じさせない空間づくりや広いエリアで快適な回遊性を実感することができた。
- ◎古い歴史的価値のある施設を残しながら、開発を進めるべきと思いました。
- ◎買い食いできる路面店があるといいですね。

4. その他、印象に残ったところ、企画全般に対する感想など（自由意見）

- ◎有楽町・日比谷界隈は子供のころから親しんで近くに職場もあったので、私にとっては当たり前すぎる場所でしたが、こうして改めて街歩きをしてみると、この街の機能と魅力を客観的に理解できましたし、再開発のたびに充実してきた歩行者空間の魅力も十分に実感できました。そして再開発のたびに街を良くしていくには、ランドデザインとエリアマネジメントが非常に重要であり、これがある街とない街では20年後には大きく差がつくだろうと思いました。ただ、大味な空間が多かったのは気がかりでした。ヒューマンな居心地の良いスペースが増えるのを期待します！ 栗原さん、ありがとうございました。（OR）
- ◎今回丸の内から歩いて回りましたが、丸の内（三菱地所側）からの今後のつながり「日比谷中町通り」や銀座など面的な広がり期待。今まで日比谷公園と日比谷の街が道路で分断されていると思っていたので、今後の計画では日比谷公園コンシャスで回遊性を含め街づくりが行われていくようで多いに期待。時々訪ずれているエリアでしたが、新たな視点で見ることができ勉強になりました。（HH）
- ◎昨今の「エセ」都心の「再開発」で見られる、超高層マンションだけが頼りの事業は、「本物ではない」のだと、教えられました。再認識しました。（コロナ禍で減少したとはいえ）これだけのオフィス需要と、繁華な商業施設、引きも切らない老若男女の来街者、これこそが都心だと教えられました。街は「来て、見て、歩いて、買って（飲食して、）」実感するものだとして改めて認識しました。懇親会のガード下のドイツビール屋もよい店でした。このような体験をする機会を作ってくださった、TEKUU-TEKUUを維持されている方々、今回のコーディネーターの栗原様、ありがとうございました。引き続き、身体の続く限りTEKUU-TEKUUに参加してみようと、（おそらく参加者で最高齢？）深く実感した一日でした。一步の歩幅が狭いため、急ぎ足でみなさまについていくと、どうしても歩数が多くなります。家から最寄りの駅までの往復を含めて、2万歩を超えたアスレチックでした。（MN）
- ◎【内幸町一丁目地区】工事に入っていることを今回初めて知りました。帝国ホテル建て替え等町の形成が楽しみです。
【帝国ホテル企画展示】ライト館開業100周年記念企画「The Wright IMPERIAL: A Century and Beyond」が開催され、このホテルの歴史を改めて知った。今残っていれば重要文化財となっていたことでしょう。
【堀ビル】1989年東京都選定歴史的建造物、1998年国の登録有形文化財 外堀通りに面した歴史を感じさせるビルがあった。
【アーバンネット内幸町ビル】1階部分を公開空地とし密集したオフィス街にゆとりを与えている。
【日比谷ダイビル】旧ビルの意匠であった彫刻をモニュメントとしてうまく利用している。
- ◎霞ヶ関からも近く、いつも通っていた場所ですが、改めて発見が沢山ありました（特に日比谷公園）。東京駅の赤レンガや帝国ホテル「ライト館」を含めて、日本の歴史を感じる企画でした。どうもありがとうございます。（MY）
- ◎日比谷・有楽町は元の職場に近いので、よく知っているエリアですが、こうして改めて歩行者空間として見直す新たな発見もあり、大変有意義な企画でした。図面等の資料もまとめていただきありがとうございました。（MH）
- ◎都心部の街区単位の建築計画から、都市の界限性を創り出してきたプロセスに関心を抱いた。当該エリアの土地所有（地上地下、街区と周辺道路・広場）や維持管理の状況の実態を知りたくなった。（KH）

◎とても良い建物が多いのに、なぜかバラバラに感じてしまう日比谷界限。部分部分では、歩行者空間化や魅力的な地下通路が整備されているが、やはり全体計画の無さが、個々の街区での工夫で終わってしまっている。マリオンの通り抜け、日比谷シャンテの方向者空間、イトシアの駅間広場などそれぞれは素晴らしいので、それらが繋がり、印象空間として認識されるようなプランがほしいと思いました。でも、こうしてそれぞれを一気通貫で見て考える機会は貴重で、栗原さん、企画ありがとうございました。(FMa)

◎国際フォーラムの行きついでに三菱一号館や丸の内仲通りまで足を延ばしましたが、こちらも観光客含め大変多くの人が訪れていて驚きました。三菱村は殆どが建て替わり高層になっていてかつての雰囲気は無いですね。所々に残されているモノは有りましたが。歩くのが別の日になってしまい残念でした。栗原さんご案内ありがとうございました。(FMi)

◎帝国ホテル1階のフランクロイドライトの展示で旧帝国ホテル「ライト館」のデザインが細やかで質の高いことと、意外と東洋的であることを感じた。日比谷の街の歴史と今を堪能できるととても良い企画でした。栗原さんに感謝です。(HM)

◎久々に有楽町、日比谷周りに行きました。ただ一つショックでした、近年のものはかわったなど。計算のできるビジネスライクな感じがにおいました。まだお金がある設計だからこれで踏みとどまっているのでしょうか。街を訪れた人が、良かったと思うところを繋いでいってほしいと常々思います。(AA)

◎この地区はパスポートの発行、映画、安売リスーツの店、ガード下の居酒屋で訪れていたところ、ちょっと行かないと街がどんどん変わっている。内幸町の大再開発前に歩いて楽しかったです。(IY)

◎東京のそこそこでどんどん開発が進んでいるが大丈夫なのか、実需要はあるのか、と思うのは私が年老いて取り残されているからに違いない。キャッチアップに努めなければ。(IK)

◎ありがとうございました。様々な仕掛けがあることで魅力的な歩行者空間が形成されていることを再認識できました。(UT)

◎あらためて、東京という街のパワーを感じました。全く地方はかないませんね。(TK)

《コーディネーターより》

◎今回は歩行者空間という視点で有楽町・日比谷の街を歩きました。近年の大規模開発における歩行者空間は、周辺含めたネットワーク化やエリアマネジメントなどかなり進化してきており、有楽町・日比谷では、そういった状況を体験できたのではないかと思います。

